





★第五列テープは基本的には〈第五列〉のメンバー及びそれに協力してくれる方々の為の単なる記録物にすぎません。したがって内容も何であっても構わないのですが、現在中心となっているメンバーの性格から、即興演奏及びその類の雑音・騒音が編集されています。今後はもっと色々な角度から音そのものと、それをとりまく関係を追求めていくつもりです(例：音声詩・具体的な音響記録など)。以下簡単に紹介するのは〈第1期第五列テープ〉群です。〈第2期〉のものについては、別のリーフレットをご覧ください。なお、( )内はテープの長さ(単位：分)を示しています。

◎5C-000《Funny Music Party》／金野“オニック”吉晃-村中文人-藤本“ゲソ”和男-宗川景子-柳健一 (60)

第五列のメンバーがデモ・テープとしてつくったもので、ICP(オランダの即興演奏集団)のミシャ・メンゲルベルクやミヒェル・ヴァイスヴィッツの曲をただくりかえし行うという馬鹿げた演奏。空缶やハウリングを多用しています(〈田舎のバス〉、及びオニックのソロ・解説も併録)。

◎5C-00《Meet the 5th Column! (又は《Vivisection of Dementia》)》／オムニバス (90)

京都・東京・千葉・盛岡その他日本各地より集めた29人の非音楽家による19の断片集。内容は全く統一感を欠いており、プログレッシヴ・ロックありフリー・ジャズありTVゲームあり現代音楽あり歌謡曲・パンク・雑音etc...少なくとも90分はヒマがつぶせます。

◎5C-01《The Shameful Parts of Deep Purpline》／Deep Purpline (46)

「ディーブ・パープリン」と読みます。深い意味も浅い理由もありません。ゲソ、ジョジョ、野性の3人による笑えない冗談音楽(?)。最もくだらないという意味で即興演奏の極北に位置しております。ローリング・ストーンズ、ファウスト(昔ドイツにあったロック・バンドです)、石野真子の曲もやっているそうですが、1回で聴いて分る人がいたらその人はアレです。

◎5C-02《21.8% of Home Made Noise》／Home Made Noise (90)

グループ名から分るとおり、そこいらにころがっている日用品で即興演奏を開始したグループです。メンバーも決まっておらず公演もしたことがありません。テープデッキでのループやディレイなどの実験をやっていたらしいのですが別にそれが実を結んだ訳ではないそうです。

◎5C-03《Soundtracks from the Imaginary Film “The Introduction for Micro-Acoustic Acoustics and Macro-Sonolity”》／中坪清一(ソロ) (90)

中坪清一による電気楽器をつかった作品集。タイトルは大げさですが、ようするに後からデッチあげたものです。内容はフリーインプロヴィゼーションありロックありミニマルミュージック風作品ありと、多彩です。

◎5C-04《Gesoloworks》／ゲソ(ソロ) (60)

ゲソが自らのソロの演奏を編集したもので、主にギター(エレクトリック、アコースティック)の演奏が多い。単なる演奏に終らず様々な技法(ループ、プリペア、その他)を用いて新たなソノリティを獲得している(のかもしれないがよく分らない)。

◎5C-05《“Fragments: I~C”, “Geräuschmanie”》／オニック(ソロ) (46)

“Fragments: I~C”は自らの、及び他の演奏家(ラ・モンテ・ヤング、高橋悠治なども含む)の演奏、或いはたまたまテープにあったエアチェックや雑音(演奏と区別がつかないが)をカットアップで100個並べただけのズサンな「作品」。“Geräuschmanie”は油っこいシンセサイザーの二重録音による23分間の拷問。

◎5C-06《Worse Halves, Worst Thirds》／ゲソを含むデュオ・トリオ (60)

ゲソが自らのセッション・ワークから編集したデュオとトリオの演奏だけを集めたテープ。一言ではいえないほど様々な傾向の音が入っていますが、聴き方によっては皆同じに聴えるのが不思議といえば不可思議、あたりまえといえばその通りです。これを今読んでいらっしゃる方でストローを切ってリードをつくり鳴らして遊んだことのある方いますか?

◎5C-07《5th Columnists in the Gallery(“5th Column Week” Live)》／多数参加 (90)

79年の8月中旬に岩手県盛岡市で〈第五列週間〉なるイベントが行われ、実に様々な〈計画〉やくパフォーマンスやく単なる思いつきやくが実行されました(少しオーバーかな)。これはその1週間のうちに記録されたテープから編集されたものです。即興演奏、シタールのソロ(永井邦治氏)、Collective Vocalization、イベントなど早い話がムチャクチャです。

◎5C-08《Initial Performances》／村中・中坪・オニック・小玉・ジョジョ・ゲソ (60)

オニックが編集したデュオとトリオの演奏集。芸術祭飛び入り参加のライブ・パフォーマンスやテープ・ミュージック、インプロヴィゼーションなど御家族一同で楽しめる趣向でございます。珍しくコード進行のある演奏も入っています。ついでながら申し上げますが、第五列の演奏はリズム・メロディー・ハーモニーのうち必ずどれか、或いは全て、またはそれ以上にく音楽である事実が欠けていますが、別に欠陥品ではございません。

◎5C-09《(T)his Master's Noise》／オニック(ソロ) (60)

テープであることを意識して、かなり電気処理をほどこした作品が多く、本人も「うるさいのであまりききたくない」と申しておりますがよく寝る前にきいているようです。サクソフォンの多重録音にイクォライザーをかけたり、ラジオのノイズにシンセサイザーの音をかぶせたりしています。とはいえサクソもシンセも借り物なのですが。

◎5C-10《Omedetations》／中坪清一(ソロ) (60)

〈第五列週間〉での30分にわたるソロ・パフォーマンスを含め、他異なった傾向の作品を2つ併録しています。数ある第五列テープの中でも最も親しみやすい音ではないでしょうか。

◎5C-11《Ultra Custom Royal Special Noise》／ジョジョ(ソロ) (46)

ジョジョのソロ及びグループ演奏(《ウルトラ・ビデ、螺旋階段》など)、ラジオ、テレビ、レコードなどのノイズを素材にしたテープ・コラージュ集。「別に音楽をやっているつもりもないので、ただ雑音を聞くように聞いてもらえたらありがたい」と本人も申しておりますので、そうしましょう。

人間はどこまで動物か／部分の部分／なく寿司の具／音楽なんて怖くない

